

流域水田など大きな被害

宮野沢川の堤防が決壊

8月5日(火)からの断続的な大雨により、6日(水)朝方には当町をはじめ津軽地方で冠水や浸水の被害を受けました。

宮野沢地区を流れる宮野沢川の堤防が決壊し、家屋の浸水や道路の冠水、水田には土砂や流木が堆積するなどの大きな被害を受けました。

さらに、トマトのハウスや大豆畑も冠水するなど収穫できなくなる被害を受けました。

8月12日(火)には水田の被害状況を確認するため、農家のみなさんと協力し、町職員が水田の土砂やごみの堆積などを調査しました。

立ち会った農家のみなさんは「今年は自分の水田はもうダメ。こんな被害は初めてだ。毎年こういうことが起きる可能性もある。早期に対策が必要だ」と話していました。



中里中学校のまわりも冠水



砂や流木が堆積した水田

みんなでラッセラー

中里子育て支援センターで鑑賞会

中里子育て支援センターが、8月5日(火)中里保育所で、中里横笛愛好会(会長・工藤強志)のメンバー9人を招き、はやしなどの鑑賞会を行いました。

この日は、支援センターを利用する5家族と同保育所児童、グループホームさくらの利用者が参加しました。

鑑賞会では、地域に伝わるはやしをはじめ、参加している五所川原立佞武多や青森ねぶたのはやしなどが披露され、手拍子をするなど楽しみました。なかでも青森ねぶたでは、参加者全員がハネトになって声を合わせて踊り、アンコールがかかるほど盛り上がりました。横笛愛好会の小田原さんが「小学生になったら、笛、鉦(かね)や太鼓をやってみたいですか」と聞くとみなさん勢いよく「はい！」と手を上げて返事をしていました。



披露され、手拍子をするなど楽しみました。なかでも青森ねぶたでは、参加者全員がハネトになって声を合わせて踊り、アンコールがかかるほど盛り上がりました。横笛愛好会の小田原さんが「小学生になったら、笛、鉦(かね)や太鼓をやってみたいですか」と聞くとみなさん勢いよく「はい！」と手を上げて返事をしていました。

恒例の盆踊りでにぎわい

下豊岡地区常会が盆踊り大会を開催

下豊岡地区常会が8月16日(土)恒例の盆踊りを開催し、地域の子どもたちや高齢者、お盆休みの帰省者などが参加し、にぎわいをみせました。

お盆の時期に死者を供養するためと地域・世代間の交流を目的に行われているこの地区の盆踊り大会は、夕方に始まり、鶴寿荘前に地元宝富士閣を応援するのぼりを中心に立てられたやぐらを回りながら、音頭にあわせて踊っていました。

参加者たちは「毎年参加している、これをやらないと盆は越せないよ。いよいよ秋がくると感じる。地区のいい交流の場となっている」などと話していました。



健闘した小泊中

「若い芽を健やかに伸ばそう」を大会スローガンに、7月28日(月)・29日(火)の2日間小泊ふれあい運動場で、第10回中泊町健やか少年野球大会が行われました。

大会には、小学校の部6チーム(武田クラブ、嘉瀬クラブ、中里北光クラブ、金木クラブ、栄クラブ、小泊イカズ)、中学校の部4チーム(中里中、市浦中、金木中、小泊中)が参加しました。

2日間とも晴天に恵まれ、球児たちは日頃の練習の成果を発揮しようと試合に臨みました。

小学校の部は、栄クラブが昨年の優勝チーム武田クラブに勝ち、優勝しました。中学生の部も、前年度と同じカードとなり、金木中が昨年優勝の中里中にリベンジし、優勝しました。今年の試合は地元チームも健闘し、あと一步という試合が多い大会となりました。



中里中、決勝での攻撃

スポット
-Spotlight-
ライト

地元勢あと一步

第10回中泊町
健やか少年野球大会

海峡イカ丼振る舞い

駅ナカにぎわい
空間で夏まつり

まちの「にぎわい」を発信する「駅ナカ夏まつり」が、7月27日(日)駅ナカにぎわい空間で行われました。

今年は、なかどまりイカ三昧フェスタとして、先着100人に海峡イカ丼の振る舞い、道の駅こどもりで販売する「海峡ドック」と「五農ヤキソバ」の特別セットの販売、手づくりとろてん、サザエのつかみ取り体験など新しい催しを開催。即完



売となる人気ぶりでした。海峡イカ丼の振る舞いでは、バスツアーの観光客も加わり「美味しかった。新鮮なものは違うね」と味わっていました。

また、中里横笛愛好会、スコップ三味線「謎の美女軍団」、健康ダンス「べえ子ちゃん」、中里三味線会、瓜田益子さんがそれぞれ、ステージで演奏やダンス、歌謡ショーでイベントを盛り上げました。

オリジナルとうふに挑戦

夏休み親子とうふづくり教室

中 泊町産の大豆を使用したとうふづくり体験が、7月27日(日)ピュアとうふ加工所で行われました。体験には6組の親子が参加し、エプロンや三角巾をまとった子どもたちが、オリジナルとうふづくりに挑戦しました。



ピュアでとうふを加工販売しているピュア出荷者協議会の木村てつさんが指導しました。はじめに原料の大豆の勉強からスタートし、大豆の栄養分やとうふ以外の加工方法などを学びました。いよいよとうふづくり。手順に従ってアドバイスを受けながら慎重に作業しました。できあがったとうふは、子どもたちそれぞれの名前入りのパッケージに入れ、世界に1つだけのとうふをつくることができました。最後は、そのとうふに値段をつけるならいくらにしますか?という質問に子どもたちは悩んでいました。ピュアの加工施設では、専用機械を使ってパンづくりやお菓子づくり体験を計画しているそうです。

メバル漁網はずし体験

活ハマクラブがモデルツアー開催

中 泊町活ハマクラブ(代表・小林寿伸)が、7月19(土)、22日(火)の2日間、この時期行われているメバル刺し網漁の網はずしや、のしイカづくり体験をするモデルツアーを開催しました。体験には、津軽鉄道利用者や中里地区、地元小泊地区から親子連れなど20人が参加しました。19日は、小泊漁協の施設である荷さばき場を見学、採れたてのメバルなどの魚類、生きたアワビやサザエの紹介を受けました。次に製氷庫へ移動し、真冬でもなかなかない、マイナス10度の世界を巨大冷凍庫に入って寒さを体験しました。ここには箱詰めするとき使用する氷が山積みになっています。この日は天候不良でメバル漁の出漁がなく、小泊漁協婦人部の指導によるのしイカづくりを体験し、スルメをのばす作業や袋詰め作業を行いました。最後は、メバルの刺身・塩焼き・フライ、イカリングなどを試食しました。22日は、19日にできなかったメバルの網はずし作業。子どもたちは、漁師さんの説明を受けたあと、ていねいに外していました。



中体連県大会を制す

中里中女子ソフトテニス部らが町長を訪問

中里中女子ソフトテニス部が、7月20日(日)・21日(月)八戸市で行われた第65回青森県中学校体育大会夏季大会で見事団体優勝(2年ぶり4回目)しました。

団体メンバー8人(2年生-中村唯・木村真琳・珍田未来・岩田菜月・福土碧・岩田優花、1年生-長利実菜・葛西美紀)が7月31日(木)に役場を訪れ、小野町長に報告をしました。

さらに、個人ダブルスでも中村・木村ペアが優勝、珍田・岩田(菜)ペアも3位に入る健闘をみせました。

選手たちは「次回は優勝し2連覇できるよこれからも頑張りたい」と抱負を述べました。町長から「皆さんよく頑張りました。団体の優勝は難しいこと、素晴らしい成績です。皆さんはまだ2年生、来年も楽しみにしています」と激励しました。女子テニス部は東北中学校ソフトテニス大会に出場し、全国を目指します。

一方この報告会には男子が1人いました。水泳競技で標準記録を突破し、全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会(東京)へ出場が決まった小山内元気くん(1年)です。1年生ながら3年生を上回るタイムを出したそうです。「初めての全国大会ですが、自己ベストを出して上位を目指したい」と意気込みを伝えました。



東北大会2位の健闘

小泊中鈴木悠太くんが報告

福島県郡山市で行われた第35回東北中学校陸上競技大会の男子中学共通四種競技(ハードル・砲丸投げ・走り高跳び・400m)で、小泊中学校陸上部の鈴木悠太くんが2位の健闘をみせました。

8月18日(月)に町役場を訪問し、小野町長に結果を報告しました。町長は「四種類もこなし、素晴らしい結果だ。これからももっと上をめざして頑張ってください」と激励しました。鈴木くんも「次はジュニアオリンピック予選があるが、今度は円盤投げで全国大会を目指します。次も報告に来たいです」と目標を伝えました。



広告

山哲子	荒関博	真治之	大川賢一	長利千恵	純也	加藤孝典	工藤優太	坂田真也	菅原光徳	外崎妙子	子長川	長谷川	松田耕也	宮越裕	子広
赤石みず	赤石あず	秋元あず	秋元周	秋元美	秋元正	秋元祐	阿部明	阿部弘	阿部雅	阿部真	阿部桃	阿部祐	荒木あつ	荒関イ	山越
赤石みず	赤石あず	秋元あず	秋元周	秋元美	秋元正	秋元祐	阿部明	阿部弘	阿部雅	阿部真	阿部桃	阿部祐	荒木あつ	荒関イ	山越
赤石みず	赤石あず	秋元あず	秋元周	秋元美	秋元正	秋元祐	阿部明	阿部弘	阿部雅	阿部真	阿部桃	阿部祐	荒木あつ	荒関イ	山越

協賛

青森県	青森市	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県
青森県	青森市	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県
青森県	青森市	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県

広告

第10回なかどまりまつりフィナーレ花火にご協賛いただきました皆様へ

第10回なかどまりまつりフィナーレ花火大会につきましては、平素より多大なるご支援ご協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

八月十一日に予定しておりました花火大会(中里地区)ですが、大雨・台風の影響に伴う川の増水による災害、打上場所の確保並びに諸般の事情等、安全を最優先に考え中止の決定がなされました。

皆様から頂きました協賛金は、一部を小泊地区の花火に使用致しました。また、来年は中泊町合併10周年を祝う記念すべきまつりとなります。そのため盛大な花火大会となるよう有効活用させていただきますので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

楽しみにしておられました方々、御協賛頂きました皆様方には、心よりお詫び申し上げます。

ご協賛いただきました皆様方の御芳名を、再度左記に記載致しました。

今後共変わらぬご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げ、重ねて感謝申し上げますと共に、書面をもってお詫びの挨拶とさせていただきます。

みんなでつくるべしプロジェクト

1口500円から協賛金随時募集！！

『みんなでつくるべしプロジェクト』事務局

〒037-0309
中泊町大字八幡字日向334 中泊町農村活性化施設 (株)アクトプラン内
TEL: 0173-57-5720 / FAX: 0173-57-5721

オリンピック選手を目標に

全国B&Gジュニア水泳大会で奈良くん入賞

全 国ジュニア水泳大会青森県予選会が、6月29日(日)ゆうえい館(平川市碓ヶ関)で開かれました。町B&G海洋センターの代表として参加した奈良佳輝くん(中里小)が見事に全国大会への標準記録を突破しました。

8月2日(土)に行われた全国大会では、奈良くんは青森県代表としてメドレーリレーとフリーリレーの選手としても出場しました。

個人では3・4年生男子50メートル背泳ぎ・自由形に出場し見事に予選を通過しました。決勝では予選の記録を上回る泳ぎで、背泳ぎでは5位、自由形では6位と入賞を果たしました。

8月22日(金)に小野町長を訪問した奈良くんは「将来はオリンピック選手が目標です、来年も全国大会にでる」と意気込んでいました。



漁獲の安定を図る

ヒラメの稚魚放流

小 泊・下前両漁協で、8月22日(金)今年もヒラメの稚魚を放流しました。毎年、県の魚でもあるヒラメの漁獲量の安定を目的に青森県栽培漁業振興協会が行っているもので、小泊地区で2万5千匹、下前地区で1万5千匹の稚魚を放流しました。

このうち小泊地区の放流では、体長5cmほどに成長したヒラメの稚魚をビーチサッカーが行われる折腰内海岸の沖合に放流しました。稚魚は元気よく砂場のある海底に向かって泳いでいきました。

放流した漁協関係者は「大きく育てて欲しい、今後の漁獲量の安定を期待したい」と話していました。



農業体験と若手農家との意見交換

東大生が体験活動プログラムで当町を訪問

東 京大学が行う体験活動プログラム(次世代を担う学生を「よりタフに、よりグローバルに」育成するため、学生にさまざまな体験活動の機会を提供する)の一環で、8月25日(月)当町の(有)武田開発(代表・塚本茂)の大豆畑を学生が訪れ、農業体験を行いました。

学生たちは大豆畑の雑草を「腰がきついですね」といいながら、鎌でいねいに刈り取っていました。

今回の体験は、プログラム受入先の深浦町の農家・新岡さんから、親交のある塚本さんに依頼があり、受け入れられました。農業体験の前日には、町の若手農家も参加した交流会を開きました。

学生たちは「地方の人たちの生活や農業や漁業体験などを通して、自分たちの視野を広げていきたい」と話していました。



いっぱい採れました

ブルーベリー摘み取り体験

中 里幼稚園・薄市保育所・富野保育所の子どもたちや先生合わせて約60人が、7月29日(火)ピュアのブルーベリー畑で、摘み取り体験を行いました。

子どもたちは、暑い中水分を補給しながら、約1時間ほど摘み取りや試食をしていました。最後は、この日のお礼にピュアスタッフへ歌とダンス2曲を披露しました。

体験を終え、子どもたちは「あまくておいしかった。パパママにお土産にする。実が大きくてびっくり。いっぱい採れてうれしい」と感想を話していました。スタッフからは「元気をもらいました。一緒に楽しませてもらいました」と声を掛けました。摘み取り中、子どもたちは元気に畑を走り回ったり、木の陰に隠れてもくもくと食べている子がいてスタッフを笑わせていました。



昔のあそびを伝える

下前でリターンワールド

下 前地区の3つの母親クラブが、7月27日(日)すくすくしたまえ館で、リターンワールドを行いました。

このイベントは、母親クラブのみなさんが体験した、昔の遊びなどを子どもたちに伝えようと、毎年開催しています。この日は、地域の子どもたちとその保護者、クラブのみなさん約40人が参加し、ヨーヨーづくりなどを楽しみました。最後は、昼食でカレーやフルーツを食べながら、昔の話をするなど世代を越えて交流しました。



じゃがいも収穫体験

畑の学校に中里保・小泊保が参加

畑 の学校(校長・田中恵津子)が行う、収穫作業を体験するため、8月4日(月)、大沢内にある田中校長の畑を保育園児が訪れました。体験には、中里保育所、小泊保育所から26人の子どもたちが参加。春に植えて大きく育ったじゃがいもを掘り起こしました。この日は気温も高く暑い日となりましたが、もくもくと収穫作業を行いました。収穫したいもを手を持ちながら、「大きないもがとれた。おいしそう。ママが喜ぶ」などと感想を話していました。掘りたいもは、それぞれ持ち帰り、料理してもらおうです。



収穫と交流

豊島地区の保全隊と共にじゃがいも収穫

地 域の手で農地の環境を維持するための組織「保全隊」。豊島地区の保全隊では、その事業の一環として今年春、子どもたちと一緒にじゃがいもを畑に植え、8月3日(日)にその収穫を行いました。この事業は、地域の子どもたちと高齢者の交流を図ろうと行われているものです。同保全隊の松田安喜夫会長の畑約100坪に植えたじゃがいもを、この日集まった20人の子どもたちと、保全隊や高齢者たちが一緒に収穫しました。今年は雨不足が影響してか小粒なものが多かったですが、それでも多くのじゃがいもが現れ、暑い中で子どもたちがはしゃぎながら収穫していました。じゃがいもは、それぞれ持ち帰ったほか、集会所でじゃがバターや豚汁にしてふるまわれ、世代間の交流が図られていました。

